

令和6年度第2回北区飛鳥山博物館運営協議会 会議録

日時 令和7年3月27日（木）午前10時～12時

会場 北区飛鳥山博物館 2階講堂

【出席】

運営協議委員 君塚仁彦会長、吉富友恭委員、井上由佳委員、有馬純雄委員、
大木秀政委員、川原淳次委員、中尾洸太委員
博物館 倉林部長、坪井館長、松本管理運営係長、
鈴木直人事業係長・学芸員、久保埜企美子主査・学芸員、
山口隆太郎主査・学芸員、牛山英昭主査・学芸員、
安武由利子学芸員、高坂勇佑学芸員、佐々木優学芸員、
田中葉子学芸員、谷口とし学芸員

【欠席】

阿久津光生委員、渋谷寿朗委員

【事務局】 まず初めに北区教育委員会を代表しまして、倉林教育振興部長よりご挨拶を申し上げます。

【教育振興部長】 皆様、おはようございます。教育振興部長の倉林でございます。

本日は年度末のお忙しいところ、君塚会長をはじめ、皆様方にお集まりをいただきまして、本当にありがとうございます。

先週、北区では中学校の卒業式がございまして、その日、雪が降っていたと思うのですが、昨日、今日と大分、もうほぼ夏日だという話で暑くなっております。子どもたちは今、休みに入っていますが、これから新年度に向けて教育委員会としても、様々な準備をさせていただくというようなベースに入っております。

本日、こちらの運営協議会では、6年度の事業につきましての中間報告をさせていただくとともに、次年度、来年度の事業計画について皆様方に相談をさせていただきながら、この博物館のあり方の検討についてもお話をさせていただきまして、皆様方からご意見を

頂戴したいと考えてございます。

実は、北区は12月に教育長が変わりまして、今までは行政マンがそのまま教育長をされていたのですが、新しい教育長は学校現場の先生でして、その新しい教育長の中では子どもたちの教育に当たっては、これからは非認知の力が非常に重要だと。それは足し算、掛け算とかではなくて、考える力や体験から学んでいく力、そういったものが重要だということで、そういったところではこの博物館の存在意味というのはとても大きなものだとか教育委員会は考えてございます。

皆様方には、本日、忌憚のないご意見をいただきまして、それを教育委員会といたしましても、しっかりこの運営に生かして参りたいと考えてございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

【事務局】 この運営協議会につきましては区の方針に基づき、会議の内容は議事録として区のホームページで公開させていただきます。記録作成の関係で、録音を録らせていただきますので、ご了承をお願いいたします。

なお、議事録は委員の皆様事前に発言内容のご確認をいただいた上で、公開いたします。

また、会議は公開とさせていただきますので、傍聴を希望される方が同席される場合がございますので、併せてご了承いただきたいと思います。

それでは、本日は委員9名のうち、7名の委員の方にご出席をいただいております。

東京都北区飛鳥山博物館の博物館条例施行規則第12条第2項に定められました、開催要件の半数以上のご出席を満たしておりますことをご報告させていただきます。

それでは、この後の協議会の進行につきましては、議長をお願いしたいと存じます。

【議長】 それでは、令和6年度の第2回の北区飛鳥山博物館運営協議会を始めたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

本日の協議会の議事は、令和6年度の事業中間報告と令和7年度の事業計画、それから、北区飛鳥山博物館のあり方の検討についての3点でございます。博物館は北区にとって、重要な教育資源であり、文化資源であり、大変大切な博物館でございますので、これからこの博物館をどう伸ばしていくかというようなことも含めて、先生方、委員の方々の忌憚

のないご意見をいただければと思います。

それでは、議事の第1番目、令和6年度博物館事業中間報告について事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。

【事務局】 令和6年度事業報告（中間報告）をご説明させていただきたいと思います。
着座にて失礼いたします。

1ページ目、博物館の利用状況でございます。中間報告は全て12月末までのことをまとめております。

開館日数が228日、館全体の入館者数が92,300人を数えました。また、常設展示の観覧者数は18,413人となっております。

また、3番、飛鳥山アートギャラリーですが、観覧者数が21,798人、第2室が15,534人とカウントされております。

2ページ目、展示の事業でございます。

特別展示室で行われました企画展、特別展覧会、スポット展示、合計5回、188日間、163営業日で開催いたしました。観覧者数が36,770人となっております。

企画展の内容ですが、春、3月から4月にかけて、桜の時期に合わせまして年度またがりで開催しておりますが、令和5年度春期企画展「ファッションプレートが映し出す近代—美術と技術の交差点—」を令和6年3月20日から5月12日にかけて開催いたしました。

また、秋期企画展でございますが、3ページでございます。

「台所の考古学—食にまつわる道具の歴史—」を10月26日から12月8日にかけて開催いたしました。

例年行われております特別展覧会ですが、回数も第23回を数えております。「人間国宝 奥山峰石と北区の工芸作家展」を開催いたしております。

4ページ目、スポット展示でございます。

収蔵資料展示ということで「学芸戦隊キュレーター—第2話 司令官FOX登場—」を開催いたしました。

また、令和6年度が荒川放水路通水100周年ということでございまして、それを記念しまして「大水害から東京を守れ！岩淵水門と荒川放水路」を開催いたしております。

5ページ目でございます。

イベント、これも例年行われておりますが、「夏休みわくわくミュージアム」を37日間、

32営業日で開催いたしました。こちらは、通常展示も行っているのですが、令和6年度に関しましては、スポット展示、「荒川放水路通水100周年記念展示」を行いましたので、わくわく展示は行っておりません。

また、概要ですが、館全体を巡るようなイベント、ミュージアム周遊イベントを行ったり、それから「きつずコーナー」を設置したりしております。

また、各種講座に関しましては通年どおり、体験学習室を利用しまして行っております。6ページ目、講座・講演会でございます。

一般向け講座・講演会、展示関連講座、夏休みわくわく講座、こちらを総合しまして54講座、91回、2,562名のご参加でございました。

この中で、令和6年度の特徴といいますか、重点事項といいますか。夏休みわくわくミュージアムを行っているのですが、それだけではなくて、夏休み以外の時期にも子どもたちに博物館に来てもらいたいということもございまして、試験的に夏休み以外で子ども向け講座を行っております。

17ページ目でございます。

31番、『浮かぶ紙おもちゃ！？「ずぼんぼ」を作って遊ぼう！』。それから32番、『博物館でお正月遊び！「福笑い」を作って遊ぼう！』。こちらは、夏休み以外ということで、この12月に合わせて行っております。

「ずぼんぼ」は紙で動かす、うちわを仰いで飛ばす江戸時代からの紙おもちゃでございまして、獅子舞の獅子頭をイメージしているものですので、それで12月に開催いたしました。そして、福笑いはまさにお正月遊びということなので、それに合わせて12月に開催したということでございます。

26ページ目、広報活動でございます。

X、Instagram、Facebookを、それぞれ投稿をしております。

それから、出張事業でございます。回想法プログラムに関しましては、希望がございましたので開催を行っておりません。一般講義のみで6団体、12回を行いました。

27ページ目、団体見学でございます。

一般見学、小中学校見学、高校・専門学校・大学・大学院見学、保育園・幼稚園、合計しまして48団体、1,755名をカウントしております。その中で一般見学に関しましては、一般団体17団体、デイサービス6団体、その他2団体でございますが、このその他に関しましては、区役所関連の部署が見学に来たということになります。

29ページ目、小・中学校の見学でございます。

小学校、中学校、その他合わせて合計12校、579名の見学がございました。その他でございますが、モンテッソーリスクールオブ東京というところがございまして、これをその他にカウントしております。

30ページ目でございます。

高等学校・専門学校・大学・大学院見学ですが、合計11校、419名の見学がございました。保育園・幼稚園見学ですけれども、残念ながら令和6年度は見学がございませんでした。

31ページ目、学校対応・支援事業でございます。

小・中学校支援事業として、出張事業を行っております。小学校の社会科の授業に合わせて、2校に出向きまして、それぞれ授業を行っております。

続きまして、2番、職場体験でございます。中学校5校、10名の方に、博物館で様々な体験をしていただきました。

32ページ目、高等学校・大学支援事業です。

インターンシップですが、東京都立飛鳥高等学校からご依頼がありまして、4名のインターンシップをお受けいたしました。内容に関しましては、博物館の中の様々な事業の補助という形で、学芸業務を中心に行いました。

また、今年度、社会教育主事实習というものを、依頼がございまして1名の方を受けております。

そして、3番の学芸員体験事業となっております。

試験的实施という形で、大学で博物館学芸員に関する講義を受講している学生に対して、実施を受ける前に博物館の活動を実体験することで、学芸員を目指す意識を高めるといった目的を持ちまして実施しております。具体的には、夏休みわくわくミュージアムの講座の補助をしていただきまして、実際に学芸員になると、どのようなことをするのかということを経験してもらったものでございます。今回は試験的实施のために、東京学芸大学様に協力をいただきまして募集を行いました。

33ページ、教員支援事業でございます。

「教員のための博物館2024」、こちらは国立科学博物館が主体となって、これに賛同した全国の博物館が参加するという形で行ったものです。

当館は「先生のためのオープンミュージアム」ということで、区内在職の小中学校の先

生方に対しまして募集をした結果、10名の方が参加いただきました。

続きまして、9番、学芸員実習でございます。博物館実習に関しましては、夏の2週間、4名の学生が実習を行っております。

34ページ目でございます。まず、見学実習が1校ございました。

そして、35ページ目ですが、博物館実習の協力ということを行っております。

協力校は東京学芸大学、当館の中で博物館実習を行ったものでございます。

10番、資料の貸し出しです。

貸し出し件数が1件、貸し出し点数が1点ございました。

また、11番、資料の利用でございます。

利用申請件数は52件、利用件数が279点でございました。そのほとんどが、出版物の刊行ですとかそういったもので、画像データの貸出しをしております。

43ページ目、資料の収集でございます。

受入件数が4件、資料件数が29点となっております。

44ページ目でございます。2番、寄託でございます。

受け入れ件数が1件、資料件数1点でございます。

続きまして、購入でございます。実施件数が3件、そして資料点数が6点の資料を購入いたしました。

13番、資料の保全でございます。

まず、5月16日から6月17日にかけて、環境調査を行いました。その結果、対策として館内の展示室など、様々なところの殺虫消毒等を行っております。

また、これとは別に、特別収蔵庫と一般収蔵庫の燻蒸を6月29日から7月8日まで行っております。

雑駁ですが、以上でございます。

【議長】 ただいま、事務局よりご説明いただきましたご報告について、これをお聞きになられてご質問、ご意見等あると思いますので、ご発言いただければと思います。いかがでしょうか。挙手をお願いできればと思います。

【委員A】 前回の会合のときに、目次を入れてくださいと言いました。入れていただきまして、ありがとうございます。非常にぱっと中身が分かるようになりました。

あと、前回お話を伺ったときに、多様性が非常に特徴であるというカリキュラムといますかプログラムですね。お話を伺いまして、今回も非常に多様な、いろんな層にリーチできるようなプログラムだということを実感しております。新しい試みも、先ほどお話をいただいたように、夏休み以外の企画や、実習体験みたいなものもあったと思うのですが、中間報告として、こういう事がすごく良かったなとか、次につながっていくなという点と、あと課題として、こういう所をもうちょっと、こうしたほうがいいのかなというような点がございましたらお聞かせ願えればと思います。

【事務局】 新しい試みとしまして、先ほどご説明いたしましたが、夏休み以外で子ども向けのプログラムを行いました。6年度は2件しか行っていないのですが、参加された方々の意識、アンケートなどをお答えしますと、非常に好評でございました。様々な年齢層の世代の方々に博物館を知ってもらって、そして利用していただく、楽しんでいただくということが我々の理想ですので、少しでも小学生あるいはその親の世代の方々にも博物館を知ってもらうということに関して、非常に有効ではないかなと思いました。後ほど、令和7年度の事業計画でもご説明いたしますが、その点をもう少し力を入れて、件数を増やすことに令和7年度は努めております。

また、教員のための博物館のオープンミュージアムを行いましたけれども、こちらも我々だけで行なうのではなくて、国立科学博物館と広域的なつながりを持ちながら行うということで、学校の先生方にも、どんどん知ってもらいたいということがあります。ほかの博物館とのつながりもこれから期待できるのかなということもございます。そこら辺をもう少し充実させることが、一つの課題ではあると思っております。

【議長】 よろしいですか。非常に大切なことだと思いますが、学校現場の立場から、何かございましたら、今の意見についていかがでしょうか。

【委員B】 教員も、やっぱりこういう専門性の高いところにつながることで、現場に還元できるんです。私も校長の立場で、教員からこういう学習をしたいという求めがあった時に、ではそういうことを詳しく知っている人はどこかにいないかなというのが非常に悩むところです。そんな時に、この博物館が、専門性のあるネットワークを駆使してつながっていて、誰かにつながっていけると本当にいいなと思います。そういう意味では、教員

の研修でしょうか。夏に集まって、こういう場を設けてもらって、そういう人間的なつながりも含めて、博物館を活用するというようなことがもっと出来ればいいなと思います。

以上です。

【議長】 国立科学博物館との連携の話がありますけれど、それをもう少し具体的に、お話をいただければと思います。

【学芸員】 国立科学博物館が10年以上前からなさっている取組に、今回、私ども博物館も参加させていただくということで、仲間に加えていただいたような形です。

その開催の中では、それぞれの単独の館で行うのもいいけれども、地域全体の博物館の活用というところも進めていくと、先生方がより広範囲、広い視野でもって教育現場に還元することができるだろうということで、今後はほかの博物館との連携も含めて、この事業を進めてもらえたらというような話もいただいております。

【委員C】 前回の会議で北区ニュースに飛鳥山博物館の事業開催について掲載を積極的に促す、あるいはコラムのような、飛鳥山博物館の存在感が分かるような掲載内容に取り組んでいただけたらどうかという意見を申し上げたのですが、それを実現されておられるようで、今手元にありますけれども、今年の1月20日号に紙面の4分の1を使って、三つの事業の開催案内をされておりました。不定期ではありますが、こういう形で当館の存在を多くの区民の方に認知していただくのは、存在感を少しずつ上乗せしていく一つの大きな手段だと思います。

興味のある方にとってみれば博物館は非常に有り難い存在なのですが、そんなのがあったというのが区民のほとんどの層であります。そういった方々に、北区ニュースの中で飛鳥山博物館の活動内容を、ちらっと見ていただくだけでも存在感が高まっていくのではないかなと思っていますところでございます。意見として申し上げます。

これについては、事業報告のなかの広報活動について、北区ニュースについては触れておられないような気もしたので、申し上げた次第でございます。

【議長】 多分、ここで議論されていることはかなり取り入れてくださって、いろいろとご努力いただいているので、いいことだと思います。

ほかに、何か委員の方々からございますでしょうか。

【委員D】 広報、SNSに关しまして、実施概要というところで、全体的に全てのSNSが投稿数を大分減らしていっているかなと思っています。しかし、フォロワー数に関しては順調に伸びているかなというところも見受けられるので、少しこのSNSに関して、どのように良かったのか、悪かったのか、どういうことをお考えなのかというところをお聞かせいただければと思います。

【事務局】 広報、SNSに关しましては、我々もかなり投稿数が減ってしまったというところで、もう少し頑張らなければいけないなと思っております。定期的に、いつ投稿する、何曜日に投稿するということもスケジュール的なものを決めながら、全員体制で行っているのですが、なかなか、これは言い訳になってしまうかもしれませんが、仕事の優先順位的なところでいいますと、どうしてもほかの期限がせまったものを優先させてしまう、そういう傾向にありがちだということかと。

それから、何分SNSのほうは敷居を低くして、情報というよりは、何かトピックス的なものを考えていきますと、なかなか、普段そんなに違う出来事がないというところで、優先順位的に下げざるを得ないといえますか、そういうようなところがございます。

それから、もう一つ、北区全体でホームページが新たにリニューアルということがございまして、どちらかというと、そちらのほうに手がかかってしまったというところも原因の一つに挙げられるのかなと思っています。

ただ、それにしても、もう少し我々も頑張って投稿数を増やさなければいけないというところは反省点として、皆、学芸員の中で共有していくところでございます。

【議長】 反省点は反省点として、働き方改革もございますので、あまりこれに無理のないようにお願いいたします。更新は本当に大変です。

それでは、ほかに何かございませんか。

【委員E】 2点お伺いしたかったのですが、29ページの小・中学校の見学というところで、まず、北区は小学校、中学校それぞれ何校あるのか教えていただけますか。

【事務局】 小学校は34校、中学校が12校です。

【委員E】 そうなのですね。としますと、すごく中学校の利用が盛んというのが一つの特徴のように思いました。というのは、全国的に中学、高校生の利用というのは特に歴史系の博物館、総合博物館は苦戦することが多いので、そういった中で5校も利用があったというのは素晴らしいなと思いました。

それで、小学校のほうは、数的に少なめに見えたのですが、これは例年こんな感じなのでしょうか。あるいは博物館としてはもっと使ってほしいけれども、なかなか来てもらえないという認識でおられるのか、その辺りを教えていただけますか。

【事務局】 小学校、中学校の一般の見学に関しましては、例年これくらいの数字かなというふうには感じております。例年ですと、小学校6年生が歴史学習の導入という形で来館される学校が多かったのですが、1年間のカリキュラムで、4月、5月ではなくて夏以降に、たしか歴史学習が変わっていつているので、何かそこら辺のことで少なめなのかなということを、個人的には感じております。

ただ、当館は学校支援、今回の中間報告で12月までですので、こちらのほうには載っていないのですが、1月、2月にかけて「来て、見て、知って！昔のくらし展」という展示と、それから学校の授業に合わせまして、昔の道具を体験するというところを行っております。こちらは私立を含めまして、小学校3年生ですね。学校単位で、ほぼ全校、当館に来館されまして、展示の見学、調べる学習とそれから体験学習を行っております。

【委員E】 小学校3年生さん、そうですね。年明けの1月、2月に怒涛のように押し寄せるとするのは、結構各地の地域博物館で見られる現象ですね。ありがとうございます。

もう1点、33ページの教員支援事業、先ほどお話を伺ってありました科博とタイアップしてオープンミュージアムを開催されたということだったので、ずっとこの事業はなさってきたのですか。先生向けの講座というのは、夏休みに。

【事務局】 特に先生向けのというのは行っておりません。今回初めての開催です。

【委員E】 そうだったのですね。分かりました。

すごく大事な機会で、貴重な行事だと思います。ただ、やはり先生方もとてもお忙しくて、どのタイミングで設定するのが良いのかなど、会場や時間帯も含めてセッションしていただいて、ベストなタイミングを見つけていただけると、もっと多くの先生方に知っていただけて参加していただけるのかなと思いました。また、今後のさらなる発展をお願いしたいと思います。

以上です。

【委員F】 私も、「先生のためのオープンミュージアム」はとても重要な企画だと思います。参加された10名の方のアンケートですが、今後の活用につながりそうな反応など、もしデータを取っていらっしゃったらお聞きできればと思いました。

【学芸員】 アンケートについては、一部、本日お配りしました、「ぼいす」の中のイベントレポートの中にも上げさせていただいております。博物館でこういうことが出来るとは知らなかった、参加したら楽しかった、ここでこういう資料を使ってこんな授業ができるということを初めて知ったので学校に帰ってから共有したい、というような感想をいただきました。先生方からは、とにかく博物館のことを知らなかったというような反応で、いろんな教育の場面で活用できる事が分かったというようなご意見をいただきましたので、今後も、より広げていく形で続けていきたいと考えております。

【議長】 それでは、ほかにご意見、ご質問はございますか。

それでは、これは議題でございますので、慣例によりまして、もしご質問等がこれ以上なければ拍手でご承認いただくというようになっております。よろしいでしょうか。拍手をお願いいたします。

(拍手)

【委員】 ありがとうございます。議題の一つ目は承認されました。

それでは、二つ目の議事に移りたいと思います。二つ目は、令和7年度はもう間もなく始まりますけれども、令和7年度の事業計画について、事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】 令和7年度北区飛鳥山博物館事業計画をご説明させていただきます。

1ページ目でございます。令和7年度の展示・イベント・講座・後援会事業計画のポイントでございます。

展示事業に関しまして、大きく例年と異なる部分がございます。「奥山峰石先生米寿記念展」を開催する予定でございます。北区の名誉区民でもございます奥山峰石先生が米寿を令和7年度にお迎えになりますことがございまして、こちらのほうは総務課が主管課として行うものなのですけれども、当館を会場として開催する要件でございます。こちらの米寿展のほうは、山形の新庄市との連携のような形で行う予定でございます。

続きまして、この「奥山峰石先生米寿記念展」の開催に伴いまして、通年ですと秋期企画展を行うところなのですが、それを「夏期スポット展示」と「秋期スポット展示」の2回開催という形に変更いたします。「奥山峰石先生米寿記念展」の開催に伴う日程調整の結果、「夏休みわくわくミュージアム展示」の代わりに、事業を変更して「夏期スポット展示」を行います。そして、「秋期企画展」の代わりに「秋期スポット展示」を行います。

なお、「秋期スポット展示」に関しましては、内容の異なる二つの展示を同時開催、特別展示室とホワイエの2か所に開催する予定でございます。

続きまして、(2) 講座・催し物事業でございます。

先ほどもご説明いたしましたが、夏休み以外での子ども向け講座の充実を図りたいと思っております。昨年度、夏休み以外に試験的に行った子ども向け、親子向けの講座が好評だったことから、今年度はさらに充実させたいと思っております。

さらに、「リレー講座」の復活を上げさせていただきました。こちらの「リレー講座」は、開館25周年の年に学芸員全員による「リレー講座」を行いました、それが結構好評でございまして、今年度の講座参加者より復活を望む声が聞かれましたので、テーマを少し変えまして、これを行いたいと思っております。

2番、展示・イベント・講座・後援会事業数でございます。

展示に関しましては、企画展2回、この2回のうち1回は「令和6年度春期企画展」が含まれております。特別展覧会2回、学校対応展示1回、スポット展示2回、常展活用展示1回の合計8回になっております。

2番のイベントでございますが、例年どおり、「夏休みわくわくミュージアム」を行います。

(3) 講座・催し物でございますが、一般向け講座37講座、52回、展示関連講座9講座、

14回、わくわく講座13講座、27回、合計59講座93回になっております。講座数が令和6年度に比べまして少なくなっておりますが、これは単発の講座ではなく、リレー講座が3回連続の講座になりますので、そのため講座数が少なくなっているような形になっております。

2ページ目でございます。

展示に関しましては、企画展2回、令和6年度春期企画展、「丸木舟ラボー縄文の船にまつわる4つのはてな一」を現在開催中でございます。6月15日までが会期になっております。

また、令和7年度春期企画展として、「Road to 日光（NIKKO）！～徳川將軍の御成道～」を開催する予定でございます。

特別展覧会は、先ほどの奥山峰石先生の米寿記念展を含めまして2回行う予定でございます。「人間国宝奥山峰石米寿記念展」が8月30日から9月21日の会期で、そして連続する形で3ページ目でございますが、特別展覧会「第24回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」を9月30日から11月3日の会期で行う予定でございます。

学校対応展示でございます。こちらも例年どおり行っておりますが、「来て、見て、知って！昔のくらし展」を1月6日から2月28日までの会期で行う予定でございます。先ほど触れましたが、学校対応事業でこういった展示を見学して、その資料を調べる、そして昔の道具を体験するというのを念頭に入れたものですので、一般の方々には土曜日、日曜日、祝日、それから学校の利用がない時間帯を開放してご覧になっていただく形になっております。

スポット展示は2回予定しております。夏のスポット展示に関しましては、「考古学者の謎を解く part 1」、こちらを7月12日から8月11日にかけて。続きまして4ページ目ですが、秋のスポット展示、こちら先ほどご説明しましたが、内容の異なる展示を二つ同時開催ということになります。そこで、「北区の種苗業」というものと「考古学者は謎を解く part 2」を行う予定でございます。

それから、常展活用展示、常設展示室の一部に展示をするものでございますが、＜回想のための＞テーマ展示「オボエテマスカ？一懐かしの暮らしと道具一」を4月26日から6月22日まで、常設展示室の中の水塚の母屋とその周辺に展示をする予定でございます。

続きまして、2番、イベントでございます。「夏休みわくわくミュージアム2025」を7月19日から8月24日まで予定しております。

5ページ目でございます。

講座・後援会、一般向け講座37講座、52回を予定しております。

その中で、子ども向けの講座ということで、7ページ目でございます。

子ども向け体験講座「親子で参加！土器づくり教室」。土器づくり教室に関しましては、夏休みの期間中に行うのですが、そのほか9月にも開催する予定でございます。

8ページ目でございます。

16番、子ども向け体験講座「あすかやまのどんぐりでおもちゃをつくろう！」。こちらは、今年度スタートしたものではなくて、例年行っているものなのですが、子ども向け体験講座という同じくくりの中で展開していくものでございます。

9ページ目でございます。

19番、子ども向け体験講座「あすかやまでビンゴゲーム！」です。こちらは飛鳥山公園で採集できるものを材料にしてビンゴ版を作ってビンゴゲームをするという、そういう内容になっております。

10ページ目でございます。

21番、子ども向け体験講座「浮かぶ紙おもちゃ！？ずぼんぼを作って遊ぼう！」。こちらは令和6年度と同様に行うものです。

そして、23番、子ども向け体験講座「福笑いを作って遊ぼう」。こちら令和6年度に引き続き行うものになっております。

24番、子ども向け体験講座「博物館年中行事 ミニしめ縄飾りをつくろう！」。こちら、正月を迎えるに当たって、子ども向けに年中行事を知ってもらおうという趣旨をもちまして12月に開催するものでございます。

11ページ目でございます。

25番、子ども向け体験講座「いろんな時代の火おこしに挑戦！」を行う予定でございます。

20ページ目でございます。4番、広報でございます。

S N Sでございます。先ほども申し上げましたが、こちら力を入れてまいりたいと思っております。

それから5番、学校対応・支援事業として、1番、「来て、見て、知って！昔のくらし展」を開催いたします。こちらは先ほどからご説明しておりますように、館所蔵の資料、生活用具の展示と、昔の道具を使う体験事業をセットとした学校向けの事業になっております。

それから様々な体験授業、考古学と書いてありますがけれども、考古学に限らず依頼に応じて実施するというような形で行う予定でございます。

それから3番、出張授業、学校に出向きまして行うのですが、こちらも依頼に応じて実施するものになっております。

21ページ目の4番、職場訪問・体験、こちらも通年の中で依頼に応じて実施するということでございます。

5番ですが、先ほどご質問もございましたけれども、「教員のための博物館2025先生のためのオープンミュージアム」令和7年度も開催する予定でございます。令和6年度は試験的に1日だけの開催でしたが、令和7年度は、先生方が夏休み期間中の参加しやすい時期ということで、夏休みに入った直後の、25日平日と26日土曜に行う予定でございます。

それから、6番、学芸員実習でございますが、例年どおり夏休み期間中の8月5日から8月17日にかけて行う予定でございます。もう既に令和6年度中に募集をかけまして、4名の実習生が参加する予定になっております。

22ページ目でございます。

出張事業でございます。こちらも、通年依頼に応じて実施する予定でございますが、回想法プログラム「昔の道具で思いでがたり」。それから一般講義も予定しております。

8番、団体見学ですが、一般見学、学校等の見学、こちらも依頼がございましたらお受けして解説も行う予定でございます。

23ページ、9番、資料の貸出・利用ですが、例年どおり行う予定になっております。

24ページの資料10番、資料の収集。それから資料の保全、こちらも例年どおり行う予定になっております。

以上、雑駁ではございますが、令和7年度の事業計画でございます。

【議長】 それでは委員の皆様からご質問、ご意見等がございましたら挙手をしてご発言いただきたいと思います。

【委員D】 ご質問とご意見のような形になるのですがけれども、私の、特に昨年度、ものすごく心に残った企画で学芸戦隊キュレーターが、館独自の取組だなと考えております。私のような一般の来館者からすると、やはり、ふだん顔を拝見することができない学芸員の方々の個性などを知ることができるのは、かなり博物館に親近感と愛着を持つきっか

けになると考えています。そういった点で、子どもたちにとっても戦隊ものというところで、ある程度受けるところがあるのかなと思っております。例えばイベントをするのは難しいかもしれないけれども、学芸戦隊のふだんの活動みたいな形でSNSで紹介するというような活動も可能かなと考えておりまして。質問としては、学芸戦隊キュレイターの今後の活動はあるのかということと、あとは、物すごくいい活動だなと思っているというような次第であります。

以上です。

【事務局】 本当に、ご意見をありがとうございます。

学芸戦隊キュレイターの司令官を私がやっております、私の一声で招集をかければ、みんなやってくれると思っております。おっしゃられたとおり敷居を低くする、先ほどから申し上げますように、いろんな世代、年齢の人に博物館に目を向けてもらうということが、我々も必要であるということは常に思っていますので、この企画がひらめいたところというのは、やっぱりそこら辺にスポットを当てたいというところがありました。

私の担当でスポット展示を行うと、ほかの学芸員がちょっとびくびくしまして、また召集されるのではないかというふうに思っているところがあるものの、2回ほど行いました。また、機会があれば、そういったものを活用したいなと思っております。

また、普段、そういった展示だけではなくて、スピンオフ的なものでSNSの中でちょっと紹介していくということも、やはり大切なことなのかなと思いますので、ぜひ、そのあたりはSNSを通じて行ってみたいなと思っております。

【議長】 僕も非常にいい取組だと思っていて、若い区民の方からこういう熱い支持があるというのは非常にいいことだと思いますので、ぜひ、継続していただければと思います。

それでは、そのほかに、ご意見、ご発言はいかがでしょうか。

【委員A】 内容につきましては、1年間これでやられるということなので、特にそこに何かというお話ではないのですけれども、同時に、博物館の次の議題にも関わってくると思うのですが、来年度、再来年度、その先に向けて、他の博物館との共同をもう少しやっていきたいというお話がありました。裏で多分インプットしながら、他のところとコミュニケーションを取るというようなものは常時されていると思うのですけれども、そういう

のは、何か組織的にされているものなのですか。それとも、個人的に皆さんのネットワークがあって、そこを掘っているという感じなのでしょうか。ちょっとバックグラウンドが分からないので、質問させていただきました。

【事務局】 他館との連携についてですが、残念ながら組織的な形での連携の取り方というのはしておりません。そういったものは実現していないというような現実です。ですので、どちらかというところ、個人レベルの学芸員同士とのつながりの中で、他館との共同による事業を開催したことが過去には何度かありました。やはり、専門分野が色濃く出てきますので、例えば私でしたら考古学のところで、何か共通のテーマで出来ないかと、以前は「葛飾区郷土と天文の博物館」と共同開催で講座を行いました。また、ほかの学芸員が過去にメトロとトラムという形で、そういった交通に関してほかの区でも持っている資料をつなげて、豊島区、新宿区、板橋区との共同開催など、そういったことはございました。ただ、そちらもやはり、そういった専門の学芸員、専門の方でのつながりというものが非常に強かったのかなと思っております。

【委員A】 博物館のエリアを全然理解していないのですが、僕ら金融の世界では、同じエリアで集まって年に1回か2回、情報交換する場みたいな、協議会といいますか、連合会といいますか、そういうみんなが集まる場というのがあるのですけれど、そういうものはあるのでしょうか。

【事務局】 博物館の協議会自体はございます。それも東京都であったり、全国であったりですとか、そういう中での総会といったものはありますが、なかなか、日程が合わないこともあって参加には至っておりません。

【委員C】 北区の7年度予算も可決されていると思うのですけれども、博物館関係の予算増額というのは、今、この場で増額があったかどうかということをお答えいただけますか。

【教育振興部長】 全体的な中での建物の関係とかで、一部配慮してもらっているところがあるのですけれども、たしかWi-Fiかもしれませんね。そういったものは今までなかった予算です。企画展などについては、過去5年ぐらいで見ていくと、コロナもあった

ので、例えば令和4年度は、ざっくり1,500万くらいだったのです。令和5年度は1,500万、今年度は多分頑張ったのですね、2,100万、来年度も大体同じくらいということで、そういった意味では財政当局と現場でしっかりやり取りをして、予算を勝ち得ているという言い方をしてもよろしいかと思ってございます。よろしいでしょうか。

【委員C】 前々回のこの会議で、ちらっと耳に入っただのは収蔵庫の問題、収集に関わるようなスペースが逼迫しているというようなことをおっしゃっておられて、対策にはそれなりの予算が必要なのかなということが頭の中に入っていたのですけれども、そのことについては、まだ準備段階ということなのですね。これからの課題ということで、頑張りたいと思います。

それと、もう一点、今、私は産業振興絡みの北区観光ボランティアのトレーニングをやっておりますが、観光ボランティアをなさっている方々は非常に優秀な方が多くて、知識量とその説明については本当に驚くばかりです。観光ボランティアと博物館の関連性というのはほとんどないと見てよろしいのでしょうか。これは質問という形でさせていただきます。

【事務局】 観光ボランティアの皆様に関しましては、こういった資料がないだろうかとといったようなお問合せに対して、ご説明したことは過去に何度もございます。それから、何回か、やはりこちらからではないですけれども、観光ボランティアの皆様から、例えば飛鳥山の歴史についてお話をしてもらえないだろうかとということで、出向いてレクチャーを行ったことはございます。ですので、先ほどの、通年の中で依頼がございましたら我々が出向いていろいろなお話をさせていただくということの中に含まれております。

【委員E】 本当に、多種多様なプログラムを多くの来館者に向けてやっておられるという、こういうのをやってほしいなと常々大学でも話をしていたような、例えば学芸員さんの名前を前に出して、推しの資料を紹介するのを既にやっていらっしゃっていて、すばらしいなと思っております。

そうした中、拝見していますと、もう毎週末、何にもない日はないくらいすごくお忙しい日々を皆様過ごしておられていて、尊敬の念を抱いております。けれども、ぜひとも、どこの行政、どこのミュージアムもそうなのですが、増えていくのは得意ですけど減ら

していくことに、すごく皆さんちゅうちょされてしまって、これはどうしよう、でも去年やったからやっぱりやらなくちゃという発想がどうしてもあるようですが、負担が生じるかと思います。ぜひ、プログラムを精査していただいて、無理のない範囲で持続していただきたいなと思いました。隔年開講でも、区民はそれで終わっちゃうんだとは思はないはずですので、本当に続けていっていただきたいです。

一つ、出張事業の中で、回想法プログラムは先ほどの中間報告の12月末ですと0ということで、その後、利用の件数はありましたか。

【学芸員】 回想法につきましては、やはりコロナの影響が大変大きくて、コロナがある程度落ち着いた状況になりましても、デイホームなどでは、外部から人を呼んでプログラムを行うということに、抵抗がまだ残っているように感じております。ですので、施設から野外に出るという意味で、博物館にレクリエーションを兼ねて来てくださるデイホームが多いので、春先に「オボエテマスカ？」という展示を常設展示で行っています。これについては、毎年大体同じ時期に開催することでデイホームへの周知につながっております。そしてこの時期に、デイホームのスタッフと一緒に高齢者の方に回想を楽しんでいただき、役立てていただこうというふうに考えております。もちろん、プログラムにつきましても、その際にPRを続けていって、無理のない形で継続をしていけたらなと思っております。

【委員E】 回想法は、恐らくミュージアム業界の人間は、ああ、とすぐ分かると思うのですが、一般的な方々にはまだ知られていないことだと思いますので、今、おっしゃったように認知度を高めていくということもとても大事なかなと思いました。例えば、博物館の片隅に、その素材とされている資料などを置いておいて、もう本当に自由におしゃべりしてもらおう、楽しいですね、これって回想法ってミュージアムでは言っているんですよ、みたいな。何かそんなコーナーがあるだけでも、普及できるのかなというふうに思いました。ご検討ください。

【議長】 本当に回想法は非常に大切な取組ではありますが、やっぱりコロナの後、状況が厳しいみたいで、影響が深刻みたいです。ただ、本当にそういうコーナーをつくっていくというささいな取組でも非常に重要だと思います。意見を取り入れていただければなと思います。

それでは、ほかに、ございますでしょうか。

今回は、特に子どもたちや先生方、それから保護者の方への取組がバージョンアップされているような、令和7年度もあると思うのですけれども、委員B、何かございましたらアドバイスをいただけたらと思います。

【委員B】 出張事業のことですけれども、令和6年度だと2校活用しているということで、先ほども少しお話をしたのですけれども、やっぱり専門性の高い方を私たちは求めているんですね。そのときに、そういうふうに博物館にまず聞こうというふうに、まだなっていないような気がしてしまして。

例えば、梅木小学校では工事があったので、地面を掘ったらレールが出てきたんです。何でここからレールが出てくるんだろうねというのは、すごく疑問に思うわけです。学校の下からレールって何でしょうみたいな。そういったことを、ああ、博物館に聞けば分かるよというふうに、ぽんとすぐになればいいのでしょうか、すぐ出張をお願いしようというふうに、なっちはいなかったなという。今、改めてこういう事例を見て、博物館にまず聞けばよかったなと感じました。そんなふうに何かもう少し、学校とのつながりとか、こういうことは博物館に聞けば教えてもらえそうだねというのが、見えるといいなと感じました。

【事務局】 ご意見をありがとうございます。

我々も学校との、先生方との連携を深めていきたいということもありまして、そのことに関しましても、大きな課題と思っております。博学連携委員会というのを以前設置して、それで先ほどの「来て、見て、知って昔のくらし！展」ですとか、そういった活動につなげていったのですけれども、また、新たに学校とのつながりというものをもう一度考え直していきたいなということで、それがこの次の議題にございます、あり方のほうの中にも、そういったことが課題になってきておりますので、それを一つ一つクリアにして、つながりを持って行けたらなと思っております。

【議長】 今回は、かなり感心するぐらい学校の先生方、それから保護者の方、それから子どもたち・・・、特に今回は夏休み以外、いろんな様々な場面で機会提供をするということなのか、あるいは先生方への情報提供を積極的にされているということで、さらなる

工夫が必要だと思うのですけれども、そのところを少し磨き上げていただければ、よりよい連携活動が実質化していくのではないかという期待が持てるようなやり取りでございました。

【委員F】 先ほど収蔵庫の話がありましたが、10番の「資料の収集」の「ねらい」に「地域資料の保護と活用」とありますが、実際に資料を有効に活用してもらうためにはデジタル化が重要になってくると思うのですが、そのような計画については、どのようにお考えでしょうか。

【事務局】 資料のデジタル化は我々もどんどん行っていきたいとは思っているのですが、なかなかそこまで手が今のところ回っていないというのが現実でございます。

ですが、これから必ず必要になってくるころだと思いますので、それを今後の検討課題の中でクリアにしていきたいと思っております。

【委員F】 デジタル化した資料をアーカイブ化できれば、ほかの館と共有でき、幅広く活用していただくことにもつながると思いますので、ぜひ、ご検討いただければと思います。

【議長】 では、私から1点だけ、先ほど報告の令和6年度の45ページのところにあるのですけれども、収蔵庫の件で、害虫の問題が報告されておりました。温室調査のところで、エレベーターホールで高めの傾向が見られたということでございますが、これは継続的にデータを取っていただくということで非常に重要で、かなり建物自体が経年しておりますので、やっぱりいろいろ出てくると思います。それから気象現象が激しいですからということで、全国、各館を回っているとかなり収蔵庫の件でいろんな状況が出てきているということなのですが、その件について、令和7年度の中で予算をかけずにどういう取組をしていくかどうか、あるいは予算措置を・・・8年度にかけて考えていただくかというのは何かございますか。

【学芸員】 私どもとしては、毎年、燻蒸を年に1回、この予算を開館以来ずっとつけてもらっておりますので、そういう意味では収蔵庫内の環境につきましては、かなり保たれ

ているというふうに自覚しております。

また、私どもは収蔵庫だけではなくて展示室やその他、いろいろなところでミニ展示ですとか、様々な展示を行っております。また、書庫などもございます。

そういった部分につきましても貴重な資源、資産を持っているということもありますので、やはり全館の環境調査、これにつきましては継続いたしまして、毎年、年に1回行っているところです。その環境調査を基にいたしまして、その年、菌やあるいは害虫の生殖が確認されたところにつきましては集中的に防虫対策を取るという形で、全館に薬を撒くというよりは調査に基づいた薬剤の需要というふうな形で進めております。

また、予算的にそれ以上はなかなか対応策が取れませんので、その環境調査の際にいただいたアドバイスなどを基に、年間を通してトラップを設置したり、また、必要に応じては殺虫剤を利用したりということを考えております。

清掃の方を含め、館内のいろいろな方の努力もありまして、状況としては比較的公園内にある博物館としましては、いい形で保たれているかなと思っておりますので、これを継続したいと思います。

【議長】 しっかりやられていると思いますので、それを継続してデータを取っていただきながら、要所要所に対応していただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、ほかにもしなければ、この件についての承認事項ということですので、ぜひ、今日お出しいただいた意見を可能な限りで反映させていただいて、事業の遂行に努めていただければというふうに思います。

それでは、ご承認いただけますでしょうか、拍手でお願いいたします。

(拍手)

【議長】 ありがとうございます。この議題は承認されました。

それでは、3点目に移りたいと思います。3点目でございますけれども、北区飛鳥山博物館のあり方の検討についてという、今度は将来の話ということになります。事務局、よろしくお願いいたします。

【事務局】 新たな活動ビジョン策定に向けた検討と書かれている資料をご覧ください。

この新たな活動ビジョンにつきましては、来年度末、令和7年度末の策定を目指して、委員の皆様にご検討をいただいているものでございます。前回、令和6年度の第1回ではミッション、全体の目標とその活動方針につきましてお示しをし、委員の皆様にご意見をいただいたというところでございます。

今回、お配りしました資料の1枚目がそのまとめ、少し手直しをしたものをまとめたものでございます。ざっと、変更点もございますので、新たな活動ビジョンとその活動方針についてのご説明をさせていただきましたらと思います。

1、新たな活動ビジョンについてです。

(1) ミッションとしましては、「みんなの“My”ミュージアム—地域の歴史、自然、文化を今と未来に活かす—」というテーマで行っていきたいと考えています。これは、今後10年間の博物館の活動を見据えたミッションでございます。その内容としては、博物館業務と文化財保護業務を行う当館独自の活動ビジョンということで、令和8年度から17年度の10年間の活動を想定したものでございます。地域の歴史、自然、文化を守り、今と未来に活かすための事業展開を行う、利用者個人との関わりを大切にし、一人一人が自分の博物館と思えるような親しみのある博物館を目指すというものでございます。

活動方針としましては、(2)にございますが「飛鳥山イズム」の継承と発展を掲げております。「飛鳥山イズム」というのは、これは私どもがつくった造語なのですが、開館以来培われてきた博物館活動の姿勢です。時代を読み、新しいことに積極的に挑戦するチャレンジ精神、普及事業を重視した博物館活動、これを合わせたものを「飛鳥山イズム」というふうに私たちは言っているのですが、この「飛鳥山イズム」を基に、五つの活動の柱における重点目標を設定し、それらを達成することによって、博物館としての使命を果たしていきたいというように考えております。

その五つの活動の柱は、「守る」「探る」「見せる」「つなぐ」「育む」の形で考えております。その各活動の柱と活動の重点目標を模式化したものが下にあります図なのですが、詳細は次のページ以降にまとめてございますので、一つ先、2ページ目をご覧くださいませらと思います。

(3) の活動の柱と重点目標でございます。

この表にまとめましたものが、前回提示したものと少し修正を加えているところでございます。

一つ目の柱である「守る」は歴史、自然、文化の次世代の継承としましては、重点目標に二つ、資料の収集、保管と文化財の保護活用を掲げました。

収集保管につきましては、具体的な活動目標、達成したい目標として三つございます。収蔵状況の見直し、それから先ほど吉富委員からもお話をいただきました収蔵資料のデジタル化、近現代資料の収集でございます。

文化財の保護、活用につきましては、四つございます。指定文化財等の保護活用、文化財の調査、記録、指導助言の拡充、文化財公開事業の推進、無形民俗文化財の継承がございます。

二つ目の活動の柱、「探る」。資料への多角的なアプローチとしては調査、研究を掲げ、常設展示リニューアルの予備調査を行っていかれたらと考えております。

三つ目、「見せる」。魅力的な情報発信としては、三つ重点目標がございます。展示公開、教育普及、広報です。展示公開と教育普及につきましては、より新鮮で満足度の高い事業、時代性を意識した展示を開催。広報につきましては二つございまして、デジタル化の推進とそれから地域ブランド力向上への貢献を考えております。

四つ目の柱「つなぐ」。多様な人々の出会いと学びの場の創出については、二つ重点目標を掲げています。連携と社会的包摂です。連携につきましては二つ活動を上げていて、緩やかなコミュニティの構築、組織内外の諸機関や団体との連携強化。社会的包摂については多言語対応の充実、障害者対応の強化がございます。

最後、五つ目の柱として「育む」。若年層の利用促進としましては、博学連携とそれから次世代育成を重点目標に掲げました。博学連携としては、区内学校の利用促進、学校見学の連携強化です。次世代育成としては三つございまして、博物館における社会経験の提供、課外活動の場としての利用促進、育ちの場の創出を上げております。

全体的に、まとめのところが長くなってしまったのですが、このような重点目標を達成するために、今後は、どのような活動を実行的に行っていくのかということにつきまして、今回と次の令和7年度の第1回の運営協議会で、委員の皆様にご意見をいただけたらと考えております。

では、2、具体的な活動内容の検討をご覧いただけたらと思います。

今後、2回で具体的な活動の検討をというふうにお話をしましたけれども、まず、今回、令和7年度の第2回では「つなぐ」「育む」について、次回は残りの「守る」「探る」「見せる」についてご検討いただけたらと思っております。

なぜ、今回は先に「つなぐ」「育む」を持ってきたかといいますと、来年度の事業計画にも表れているように、この二つというのはこの博物館の活動の主力、特に力を入れていく部分でもありますし、ほかの博物館と少し違いがあるといいますか、この博物館ならではの活動にもなっていくのではないかといいるところがありまして、少し時間をかけて、私どももより検討を行っていきたいと考えておりますので、今回は先にこの二つのテーマを皆様にご検討いただけましたらというように考えております。

それぞれの具体的な活動内容については、現状と目標、それから懸案、課題についてそれぞれ上げまして、どのように行っていくかというところを皆様からのご意見をいただきましたというように考えているところでございます。

では、柱の四つ目に上げている「つなぐ」についてです。多様な人々の出会いと学びの場の創出ということで、重点目標の一つ目に上げました連携なのですが、一つ目、緩やかなコミュニティの構築についてです。

コミュニティにつきましては、現状としまして、飛鳥山ダイレクトメールメンバーの会の設置と運営というところがございます。これは前回の協議会の中でもお話をしたものですけれども、年度4回発行している催し物案内という講座や講演会などのイベント情報を記した刊行物があるのですけれども、それを郵便料金だけいただきまして、ご登録いただいた方に発行したタイミングでお送りするというような会でございます。ほかの博物館で多く見られる友の会ですとか、ボランティアといった、そういった団体の設置は、現状として当館にはないというところがございます。

目標として、登録、選択制ボランティア制度やファンクラブを検討していきたいと考えています。これは、友の会のような会に広げる、ボランティア団体をつくるというところに焦点を当てていないのは、前回も少しお話をいたしました。また、ミッションの冒頭にも掲げておりますように、これまでのこの博物館のご利用いただいている皆様の実態や、ニーズなどを数値化している範囲ではないのですけれども、お客様とのやり取り、話合いなどを通しての中で、そういった友の会の中にある横のつながりというよりは、博物館との個人的なつながりに魅力を感じてくださっている方が多いのではないかと考えております。今回の目標の中には登録制、選択制のボランティア制度やファンクラブを検討していきたいと考えているところです。

この登録制、選択制ボランティア制度というのは、昨今の小中学校のPTAの運営などでも広がっているものなのですけれども、ボランティアの会というのをしっかりと設けて

いる会長、副会長がいて、そこにお手伝いをお願いするというような形式ではなくて、事業ごとにボランティアをその都度募集をかけてお手伝いをいただくというようなシステムとして考えております。

それから、ファンクラブについては、具体的な形式はまだこれからというところなのですが、友の会ではなくてファンクラブというようなイメージ。これは前回の協議会の中でお話をしたところなのですけれども、推し活につながるような形でファンクラブに入ってもらった方に、この博物館を応援していただけるような、そういった会の運営が進めていけたらどうだろうかというところで、今、考えているところでございます。

こういった緩やかなコミュニティの構築の中での今後の懸案、課題としましては、事務局、それを受け入れる運営をしていく側の体制づくりであるというように考えております。

続きまして、3ページ目をご覧ください。

組織内外の諸機関や団体との連携強化でございます。現状としましては、大学などの教育機関を中心とする団体や諸機関との連携を行っております。今後としましては、その幅をもっと広げていって連携を深めるということで、多領域、例えば博物館業界だけにはとどまらずに幅広い領域の方との連携や関係を強化していけたらと思っております。それによって博物館自身の活動の幅も広がりますし、ご利用いただく方の幅も広がるのではないかと考えております。

既に、回想法プログラムなどにつきましては、高齢者施設の方と連携して進めているところもございますし、以前行っておりました妊婦さん向けの講座の中では、保健師の方や助産師の方と連携をしながら、北区の各関係部署ともそうですが、連携をして講座を進めていったこともございますので、そういったところをもっと意識しながら進めていけたらいいなと考えているところです。

その、懸案、課題としましては連携先の模索というところでございます。まだ、白紙の状況なので、よく、今後どのような方向で博物館が活動を進めていくか、それを確実に実現していくためにはどういった機関、団体と連携するのがいいか、そういったところの分析を進めていくことが必要と考えております。

続きまして、重点目標の二つ目の社会的包摂についてです。多言語対応の充実につきましては、現状としては主に常設展示室での展開を進めているところです。常設展示の外国語版リーフレットを作成し配布をすること、それから常設展示の音声ガイドの貸出しを行うというところでございます。

館内全体としまして、現状では今、全ての表記が日本語表記になっております。まだ、要所要所でピクトグラム、ピクトサインを利用しまして、どこにトイレがあります、エレベーターはこちらですというような表記を行うようにはしておりますが、言語表記としては日本語のみという形になっております。

目標といたしましては、今後の館内リニューアルに向け、こういった多言語対応を再検討していきたいと考えております。やはり、施設の改修はお金、予算なども関わってくるところでございますので、これは長期的に検討していかなければいけないところなのですが、目標の中に掲げ、行っていけたらと思っております。

この懸案、課題としては、対応範囲の設定、何か国語にするのかとか、どの施設のところに多言語対応を行っていくのかですとか。あとは、もし展示室のパネルを多言語表記にするのであれば、何か国語で行って、どれぐらいの規模のパネルで表示をしていくのか、そういった細かいところにもあるのですけれども、対応範囲というのも意識しながら検討する必要があると思っております。

また、ツール自体も現在のようなリーフレット、紙媒体のものにするのか、パネルの中に表示をしていくのか、アプリを活用していくのかということのほか、言語自体も易しい日本語を使うというような方法もございますので、様々な検討を加える必要があるというふうに考えております。

それから、二つ目、障害者対応の強化についてです。現状としましては、施設のバリアフリー化を順次行っているということと、団体見学で個別に対応を行っているということがございます。例えば、視覚に障害をお持ちの方が団体見学でいらしていただいたときには、学芸員がその対応に当たりまして、視覚に依らない解説を行うとともに、ハンズオンということで、例えば縄文土器を、実物を触っていただいて、その周りの文様の感触を味わっていただくというようなことを行っております。

目標としては、個人利用、団体であれば今、行っているところですが、個人でふらっとお越しになった方もお楽しみいただけるようなコンテンツづくりが行えたらと考えております。

懸案、課題としましては、今後10年間、この現在の施設で行える取組として今、上げていますが、長期的な視野としましては、将来の大規模改修も視野に入れた改善点を洗い出していく必要があると考えております。

では、続きまして、二つ目「育む」の若年層の利用の促進についてです。重点目標の一

つ目に上げました博学連携でございます。

一つ目として区内学校の利用促進を具体的な活動として上げていますが、現状としましては、団体見学の受入れ、出張授業の実施、資料の貸出しを行っております。ただ、事業報告にありましたように、こういった学校単位での団体見学というのは学区外からの利用が多く、区内での利用が近年低い傾向にあります。数値化、これをしているわけではないのですけれども、10年前と比べると、やはり歴史学習の導入もしくは郷土の地域学習での利用ということで、非常に春先から夏にかけての時期の利用が小学校、中学校、いずれにしても団体見学の利用が多かったのですが、近年は極めて少ないという状況にあります。

目標としては、やはり、北区内の小中学校の皆さんにもご利用いただきたい、この地域の資料について触れていただきたいというところがありますので、北区内小中学校の利用率の向上を目指す。

例えば、方法としては、ここに来ていただくだけではなくて資料の貸出し、これも以前から行っているのですが、それをより前に進めるという意味で再検討を進めていくということや、様々な教育機関や団体の受入体制の強化、例えば特別支援学校ですとか。様々な教育機関の方が、こちらをご利用いただけるような体制を整えていくことというように考えております。

懸案としまして、やはり周知です。まずは知っていただかなければいけないだろうというところで周知を掲げました。それから、あとはここ数年急速に進んでいる大規模校が増えておりますので、それへの対応という点です。博物館の施設面でもそうですし、あとは人員体制の面も上げられます。区内の学校は今統廃合が進んで、学校数が以前よりも減っているけれども、児童生徒数が増えているというところがあって、一つの学校の1学年の人数というのは以前よりも増えているというところはございます。そういった中で、どのようにきめ細やかな対応を行っていくかというところを、やはり施設でも人員体制の面でも懸案事項、課題として、今、実際に直面しているところなのですが考えていかなければいけないところでございます。

それから、二つ目、学校見学の連携強化です。現状としては個別対応による出張授業や、資料の貸出しというのを行っているところです。というのも、個別対応になっているのが先ほどから何回もお話に出ておりますように、まずは先生方にこの博物館の利用の仕方というのを、我々の周知が足りていないというところがあるかと思います。ですので、目標としましては、博学連携委員会に変わる新たな勉強方法の構築ですとか、先生のためのオ

オープンミュージアムを継続して開催していくことと考えております。

この博学連携委員会というのは、現場の先生方にお集まりいただきまして、連携について検討するという会で、以前は継続的に行われていたものなのですが、今は、会自体はないという、活動をしていないところでございます。というのも、やはり先生方に非常にお忙しい中、博物館に出てきて検討していただくというのが難しいというところもあるということで、今後は博学連携委員会に変わる新たな連携方法を構築していきたいということで。例えば、小中学校の各部会、社会科部会や理科部会といった部会に参加させていただく中で、博物館の利用方法を先生方にお伝えする、また、こういった資料があるかという情報交換をするというようなことが行われていけたらどうかというふうに思っております。

また、先生のためのオープンミュージアムを今年度初開催しましたが、それも順次会を広げていき、また、今は先生方の個人的なお申込みで参加いただいているような形ですが、北区内の先生方の教育指導課といったところの部署とも連携をして、例えば教員研修の単位の一つに加えていただくというような形とか、先生方が参加しやすいシステムというのも同時に検討していったら、この博物館の利用の方法、魅力についてお伝えしていけるような活動が進めていけたらと考えております。

この懸案、課題については、周知の方法とそれを行っていく人員体制が上げられると考えております。

それから重点目標の二つ目、次世代育成についてです。博物館における社会経験の提供としては、現状としては博物館実習やインターン、それから今年度から始めました学芸員体験の受入れを実施しているということです。

目標としては、博物館実習やインターン、これは今後も継続して受入れを行っていきたいということ。それから、あとは進路選択、学芸員体験というのを今年度始めたということにつながるのですが、高校生や大学生が今後進路を選択していく中でのサポートを博物館でできないかというところで、何かそういったサポート体制の構築を行っていったらと思っています。それは博物館業界に就職するということを視野に入れている高校生、大学生もそうですが、そうではない時点での高校生、大学生についてのサポートも行えたらどうかと思っております。

今年度は、子ども向けの夏休みわくわくミュージアム体験講座と一緒に参加をしてもらいましたけれども、そういった体験に参加してもらうことで、博物館での講座、実務経験に携わってもらって、より今後の進路、こういった業界に就職をしたいというふうに思い

を強めてもらうということもそうですし、実際に博物館実習となりますと大学の3年生、4年生になってある程度進路を固めた学生が来る場になっているのですけれども、実際にこの仕事が自分に適性があるのかどうか、今後この道に走って行く、目指すことが自分に本当にあっているのかというようなことを見極めてもらうような、その前段階の支援というのも博物館で行っていったらいいなと思っております。

また、博物館の仕事だけではなく、子どもに関わる仕事というのが、自分に適性があるのかどうかというのを、この体験を通して感触を得てもらえるような、そういった場にもなっていったらいいなと考えております。

これにつきましても、懸案事項、課題としては、やはり人員体制。どう博物館の中で人を、体制を組んでサポートをしていくのかというところかと思っております。

それから、課外活動の場としての利用促進としましては、現状、小中学校向けの体験講座の開催と、それから北区ジュニア考古学クラブの実施が上げられます。この小中学生向け体験講座は夏休みわくわくミュージアム、それから夏休みの時期を外した子ども向け体験講座ということで、これまでも行ってきましたが、より拡充して行っていくというようなところを考えております。

北区ジュニア考古学クラブというのは小中学生向けのクラブ活動で、歴史に興味がある子どもたちに博物館に集まってもらって、春、夏、秋、冬、定期的に集まって考古学にまつわる活動、遺跡見学、ものづくり、資料調査などをしてもらうという活動を行っております。ただ、現在、これが考古学、歴史分野に関わる活動だけにとどまっているところがあります。当館は総合博物館として、自然にも、文化にも資料を扱っている博物館でございますので、目標としましては、自然や地理など様々なジャンルにおける活動の場を提供して、より歴史だけにはとどまらずに幅広い活動がこの博物館でしていけるような、そういった場所にできたらと考えているところです。

懸案、課題としましては、やはり人員体制というところが上げられるかと思えます。

最後、育ちの場の創出です。ここは、育てるではなく育ちとしたところが私どもの意図するところになるのですけれども、この博物館の活動は博物館という場が間接的にこれからの将来を担う子どもたちの成長の一つにつながる場となればいいなと考え、今回上げたポイントでございます。

現状としましては、この博物館は高齢者を中心とする方々にご利用いただいている、これは数値としては上がるポイントにはなるのですけれども、利用実態を見ておりますと入

館者に占める親子連れ、特に未就学児を連れてお子さんの利用率というのは非常に高くなっております。それは博物館への入館が無料というところもあるのですけれども、やはりトイレ利用や赤ちゃん休憩室の利用ということも含めての利用で、入館者に占める親子連れの利用率というのは実は高いというところがございます。

ですので、目標としましては、そういった親子連れの方々の、展示を見るですとか講座に参加するといった、本来的な博物館利用を促進することができたらと考えています。そういったことを通して、子どもたちの知的好奇心を刺激し、子どもたちの育ちにつながればいいなと思っております。

日常の生活の中に自然に博物館があって、休みだから博物館に行ってみようか、あそこに行くと楽しいことがあるよね、そういった場に博物館がなっていけたらいいのではないかと考え、今回掲げさせていただいております。

この、懸案、課題としましては、今、未就学児向けの講座ですとか期間限定の絵本塗り絵コーナーというような形で、親子連れの取組というのは行っているのですけれども、恒常的に楽しめるといような体制までは来ておりませんので、親子連れが楽しめる空間やコンテンツづくりを行っていくことが必要というふうに考えております。

ということで、簡単ではございますけれども、現在考えているものにつきまして、具体的な活動内容でご説明をさせていただきました。

私からは以上でございます。

【議長】 新しい活動のビジョン策定というような検討ということで、全体的な「飛鳥山イズム」の継承、発展ということを大きな枠組みとして、活動の柱が五つ、そしてそれに即して重点目標を11掲げられていて、しかも現状と目標と懸案と課題ということで、非常に構造的に、ご説明いただいたと思います。ありがとうございました。

大変もう時間が短くなってしまっているのですが、次回の委員会でも継続の課題になっていくと思いますので、ご意見をいただければと思います。

【委員D】 やはり、大学生の視点から博物館実習やインターンの取組について、意見を述べさせていただければと思うのですけれども。おっしゃっているように博物館実習というような機会がございますけれども、どうしても3年生、4年生の実習になってしまうといったところがございますので、なかなか進路が特定している、私も2025年2月、先月に学

芸員資格を取得したのですけれども、私はもう就職のほうに進路を決めてしまっていたので、どうしても、学芸員という選択肢を考えることができないという現状がある上に、私の所属している早稲田大学のようなところは、学内で博物館実習を済ませてしまうところがございますので、そういった面で博物館実習以外の選択肢。例えば、おっしゃっていたようなインターンであるとか、あとは進路選択のサポート体制の構築といったところで、インターンに関しては、昨年度の事業報告を見させていただくと、飛鳥高等学校という高校を対象とされているのかなと思うのですけれども、できればこれは大学もあるとすごく嬉しいなというふうに感じたところです。

あと、インターンというふうに3日間用意するという形でなくても、例えば、すごく多くのワークショップやイベントをされていると思うので、そういったところのボランティアであるとかというところも、やはり一つ学芸員の方々のお仕事を学ぶのに適したところかなと思いますので、そういった、ボランティア体制みたいなところで若者を使っていたくというのも一つご検討いただければというところです。

以上です。

【事務局】 貴重なご意見、ありがとうございます。

私どもも、ワークショップなどの開催を非常に多く行っておりますので、その場を経験していただくことで、自分の将来につなげてもらえたらという思いがあります。この学芸員体験というのも、実はその辺りを今後展開できたらなというところを考えながら始めたところですので、進めていけたらなと思っています。

【委員 A】 まだ多分ブレスト段階といいですか、何といいですか、すごく無理なことを言っているかもしれないのですけれど、ザクッと聞いていただければと思います。

前回もちょっとお話をしたのですけれども、ミッションについては、一住民としても自分の博物館がここにあるというような形は、非常に心に響くといいますか、いい方向性だと思います。ただ、そのときに多分、飛鳥山は三つの博物館だけを対象にしているというイメージはないと思うので、まさしく地域としての博物館。飛鳥山の三つの博物館を中心とした北区の博物館、そのためのコミュニティの場であってほしいと思います。そうすると、多分ここに掲げていただいた五つのことというのは、縦割りではなくて全てがつながっていくのではないかという気がしてしまっていて、その視点を踏まえて、途中でもお話があ

ったと思うのですが、出来ることと出来ないことがいっぱい出てくると思いますので、優先順位をつけて、取捨選択していただくというのが必要なのかなと思いました。非常に幅広に、いっぱい書かれているので全てを10年かけてできるかどうかというのも、ちょっとよく分からないなという気がしたのは一つあります。

それから、今日のテーマである「つなぐ」というところと、「育む」というところなのですが、これも。「つなぐ」という点でご指摘をいただいているように、他のところとコンテンツをつなぐという部分と、あと、地域住民の人たち、人をつなぐという二つの視点があると思います。他をつなぐというので、先ほども最初の事業計画のところにもありましたけれど、日本国中をつなぐというのはあるのですが、僕としては、北区の中にもいっぱい点在しているコンテンツがあると思います。赤羽でもそうでしょうし、田端でもそうでしょうし、いろんなものが点在していて、皆さん、僕もそうですけれどちょこまか行くのですけれど、つながっていないのですよね。そこを何かつなげてほしいなという。

そのためのコアである、ここが一番大きいので、ここが中心となって北区の他のコンテンツをつなげていただく、例えばG o o g l eのA r t & C u l t u r e じゃないですが、バーチャルな北区ミュージアムをつくって、そこに飛鳥山があり、田端があり、赤羽台がありというような形の、それこそデジタル化ともつながるのですけれど、デジタルでそこが見えるようになっている。じゃあ、今度ここに行ってみようかな、そこで、例えば先ほどちょっとお話があったように、観光ボランティアさんがいらっしゃるので、その観光ボランティアさんと共同で北区トレイルみたいなものをつくって、いろいろ回れる機会にもっていく。

それから、「つなぐ」ということで、外国人が結構増えていると思います。見せるときに多言語で見せるというのもあるのですが、それをして、来てもらうほうがもっとハードルが高いと思うんですね。そのときに、うちの奥さんは日本語教師をしているのですけれども、例えばここで日本語の教室を初心者向けに開催して、ここに来てもらって、ついでに展示を見てもらって、いろんなところに行ってもらおうという、何か入り口の、人のつなぎ方というのもあるのではないかなと感じました。

まだ、いろいろ多分アイデアはあるかとは思いますが、全体がつながるようなコンテンツというか、つくりというのを私としては期待したいなと思っております。

あとは、コンテンツとつなぐときに、ここで例えば北区だと昔は映画館があったり、それから薪能をやっていたりとか、いろいろあると思います。そういう、アートとかミュー

ジックとかも含めて、そこで講演やコンサートをしてみたり、ちょっとこれも適当に言いますけれど、海外ではよくナイトミュージアムをやるので、夜だと若者が会社帰りに来て、ちょっと聞いて、ついでに見てというような形もあるので、そういう場のつくりとか、そういうのも検討していただくと、今までになかった人たちが来て見て、すごく面白いな、じゃあ今度は別のところに行ってみようかなとか、そういうことを考えていけるのではないかなとお話を聞いていて感じました。

【委員E】 社会的包摂のところで多言語対応、これは本当に日本全国各地いろんなミュージアムが悩んでいるところではあるのですが、昨年オープンした企業ミュージアムの展示を見ていますと、もう完全にお手元のスマホでこちらのQRコードを読んで、ご希望の言語をお選びくださいという形で、リーフレットを用意するというのはちょっと下火になっているのかなと思います。

たくさん刷ってしまうと在庫を抱えますし、使われなかったり、読まれなかったりとかも実際にありますので、やっぱりもうスマホ、ほとんどの方が持っている、持っていらない方のための貸出しタブレットが数台あってもいいかもしれませんが、もうあるものを前提でこれからの時代、つくっていったら間違いないかなというふうに思っています。ぜひ、最新の展示の言語対応を見ていただけますと、ヒントがたくさん出てくると思います。

あと、障害者対応につきましても、個人と障害者の方々ということだったのですが、これも人をどう張りつけるかという問題もありますが、例えばワゴンをつくっていて科博などもやっていますが、物語ワゴンのような、テーマごとに出していった対応できるようなきっかけをつくっておいて、それらに。それこそインターンさんにトレーニングして、それに対応してもらうなんていうのも一つかもしれませんし、そういった展開もありなのかなと思いました。

それから博学連携、「育む」、若年層ですね。若者の利用促進ですが、学というふうにいつてしまうと、どうしても学校に限定されてしまうのですが、今の子どもたち、例えば小学生であれば学童に通っていると思います。学童は平日だと短時間の利用が多いのですが、長期休暇、夏休み、冬休み、ちょうど今は春休み、結構長い時間狭い空間で過ごしている子どもたちがたくさんいるんです。なので、そういった子どもたちに来て欲しいですし、何かコンテンツをパッケージ化したものを貸し出して、あちこち、ぐ

るぐる回して行って、この博物館の存在を楽しみ、魅力、そういったものを発信できたら、本当に子どもたちも学童もコンテンツを探していますので、そういったところにつながりが生まれたらいいなと思いました。

以上です。

【議長】 大変貴重なご意見をたくさん出していただいているところですが、何か、最後にございますでしょうか。

ここから先、継続的な話合いの議題として、いろんな意見交換をしながら、いいものにしていければなと思っております。先ほどご発言がございましたけれども、なるべく優先順位をつけていただいたくということで、実際に打合せのときに、教育振興部長と飛鳥山博物館長とお話をしていたら、やっぱり北区の場合、外国籍住民の方が増えてきている。ただ、東南アジア系の方が増えてきているということなので、そこら辺のところを見据えながら現状に即したというのが、コンテンツの中に書かれておりますので、それも無理なく順番を決めて行っていただければというように思います。

学芸員がこれで倒れてしまったら元も子もありませんので、そういう意味で中長期的な視点で取り組んでいただければなというふうに心から願っております。

それでは、ほかに何かなければ、これで本日の協議会の議事については終了とさせていただきます。

冒頭で、教育振興部長からお話がありましたけれども、非認知能力、こういうものが非常に注目されているということなので、ミュージアムや博物館というのもそういう観点で、かなりこれから再注目されていくのだらうと思っております。DXも非常に重要なのですが、同時にこの博物館の売りというか、強みというか、それをどんどん今までどおり、バージョンアップしながら伸ばしていただければというように、心から期待を申し上げて、本日の会議を終わりたいと思います。

ご協力ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】 議長、どうもありがとうございました。

委員の皆様も、貴重なご意見をたくさんいただきまして、本当にありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第2回運営協議会を終了いたします。

本日は大変ありがとうございました。